

# 命をつなぐ

福山市立御幸小学校

5年 和田 優太郎

「ピンポーン。和田農園です。」

ぼくの祖母は時々畑からとれた新鮮な野菜を届けにきてくれる。

なすび、きゅうり、トマト、ピーマンなどが一輪車に乗っている。大きなかぼちゃが乗っていてびっくりすることもある。

「とれたてじゃけえ、栄養がいっぱいよ、それに、無農薬じゃけえ安心よ。」と言いながらぼくの家野菜を置いて帰る。

ぼくは野菜が大好きで、特にトマトときゅうりが好きです。

とれたてのトマトは甘みがぎゅっとつまってて果物みたいな味がします。

わが家の自まんの「和田農園」なのです。ただの畑だけど勝手にそういう名前をつけていて面白いです。

もっとすごい物もあります。それは「梅干し」です。夏休みに、祖父と祖母と母とぼくで昼ご飯を食べていると、祖母がかめの中から梅干を何個か出しながら言いました。

「これはわたしがお嫁に来た時からある梅干よ。」つまり、ぼくから見ると、「ひいひいおばあちゃん」がつ

けた梅干なのです。

ぼくは、その梅干を少し食べてみました。すっぱかったけど、味が深くて、あせをいっばいかいたぼくの体にはぴったりでした。

祖父が「塩分がとれるけえ熱中症対策にええなあ。」と言うと、母が負けずに「この梅干は、次はわたしが引継ぐんよ。」と得意気に言いました。

梅干をつけたこともないくせにとぼくは心の中で思いました。

ぼくは、時々意識がなくなる病気なので、薬をたくさん飲んでいて、いつも誰かが、見守ってくれています。

学校に登校する時も、祖父母や両親が順番に見守り役について来てくれます。

おふろに入る時はぼくの兄と一緒に入ってくれます。

でも、ぼくは時々自分の自由がないことをいやだと思うことがあって、母や兄とけんかすることがあります。

みんなのように自由に遊びに行ったり自由に帰ることが出来ないのがくやしいからです。

そんな気持ちを持っていたけれども祖母の野菜や昔から伝わる梅干を食べていると、ずっとつながって来た大事な命を大切にしようと思えるようになりました。

そしてぼくも大事につないでいけるような人間に成長したいです。